

令和4年度第2回障害者雇用促進プロジェクトチーム (発言要旨)

日 時：令和5年2月13日（月）

10時30分～11時30分

開 催：オンライン

参加者：委員12名、オブザーバー5名

1 開会

2 あいさつ

（労働政策課長 設楽 修一）

皆様方におかれては、平素より本県の障害者雇用の促進について、多大なるご尽力を賜り、この場をお借りして、感謝申し上げます。

本日の会議では、委員の皆様から様々なご意見をいただき、実効性のある施策の推進を図って参りたい。

3 自己紹介

- ・代理参加の今井氏が自己紹介

4 議事

（1）令和4年障害者雇用状況の集計結果について

（小関委員）

- ・民間企業の雇用障害者数、実雇用率いずれも過去最高を更新
- ・公的機関は法定雇用率が未達成の機関もあるが、前年より上昇している。
- ・令和5年度からの障害者雇用率の設定等及び短時間労働者に対する実雇用率算定等について、国で議論されている方向性について紹介

（竹内座長）

- ・障害者雇用に関して、企業の課題や必要な支援等があれば意見をもらいたい。

（須田委員）

- ・物価高騰や最低賃金の上昇等、企業の状況は厳しくなっている。また、障害者雇用率の上昇や助成金の見直し、新たな助成金の創設等も報道されている。障害者雇用に関する情報等を整理していかないと、障害者雇用に乗り遅れる企業もあると思われる。

（竹内座長）

- ・雇用率の向上には、精神障害者のさらなる就労も必要であると思うが、支援者側の意見や課題等を聞きたい。

（横田委員）

- ・精神科のデイケア利用者には、若い方だけでなく、60代の方でも働きたいという気持ちを持っている方もいるが、働きたい気持ちが就労にすぐ結び付くわけではない。本人の気持ちの中で一步が踏み出せない。それを支援するのがケアスタッフの役割と思っているが難しさもある。

- ・デイケア利用者では、就労継続B型事業所への就労を目指す方が多いが、たくさんの方が就労したい気持ちを持っている。その就労意欲を持っている方を実際の就労に繋げていくために、こういった会議の場等を通して関係者と繋がりながら、細かい支援をすることで継続した就労に繋がると感じている。

（竹内座長）

- ・精神障害者の雇用成功事例のほか、上手くいかなかった事例の両方について、ホームページやシンポジウム等で紹介するようなことを事務局で検討してもらいたい。
- ・株式会社アムコは障害者雇用を積極的に行っていると思うが、課題等を感じていることがあれば教えてもらいたい。

（佐藤（武）委員）

- ・精神障害者の雇用に関して少し苦戦している。本人がちょっとしたことで悩むことがあり、管理者としても本人に声がけ等をして悩みを聞いているが、本人が管理者に言いにくいこともある。そういった部分については、ナカポツ等の支援機関としっかり情報共有をするなどしている。

（竹内座長）

- ・精神科医の経験から、精神障害者の意見の拾い出しに苦戦する気持ちがわかる。日々の過程の中で話し合える関係になれると良い。

（２）令和４年度実施事業について

（事務局）

○企業向け支援の実績報告

- ・モデル企業２社（群馬ヤクルト販売(株)・ハルナプロデュース(株)）にて２名、採用見込み
- ・群馬ヤクルト販売株式会社は総務事務、ハルナプロデュース株式会社は品質保証の業務で受入予定
- ・企業向けセミナー参加者４７名
- ・導入事例動画について、モデル企業の事例を動画にし、県のＹｏｕＴｕｂｅに公開予定

○障害者向け支援の実績報告

- ・障害者・支援者向けセミナー参加者７６名
- ・障害者テレワーク採用説明会参加者１０７名
- ・応募準備研修参加者９名
- ・特別支援学校でのテレワーク実習を二葉高等特別支援学校・赤城特別支援学校で実施し、２校合計１２名参加

（竹内座長）

- ・障害者のテレワーク導入促進にあたり、企業側の意見をいただきたい。

（五十嵐委員）

- ・企業全体のテレワークに左右されない、障害者テレワークに特化して、前面に出すことが促進に必要であると思う。「障害者テレワーク」のように新しい雇用形態としてアピールしてみてはいかがか。また、雇用率が上がる予定であり、企業は障害者雇用にさらに力を入れることになると思うので、テレワークに関するインフラ整備等の助成もあると良いと思う。

(竹内座長)

- ・群馬障害者職業センターの利用者でテレワーク就労を希望する方がいるか教えていただきたい。

(岩佐委員)

- ・募集をしている企業はあるが、障害者職業センター利用で、実際に採用まで結びつくケースは少ない。テレワークで就労するには、生活面も自分でコントロールする必要があることを理解している方でないと就労を継続することは難しいと感じている。

(佐藤(あ)委員)

- ・センターの利用者で、県外のテレワークに特化した就労移行支援事業所を利用したいと希望している方もいる。県としても、セミナーを開催して事例を共有するだけでなく、就労移行支援事業所等に委託をするなどして、障害者が県内でテレワーク就労の訓練を受けられるようにし、テレワークで働くことができる人材を企業が確保できるようにしていくこと等も進める必要があると思う。企業側と障害者側の双方で取組を進めて行かないと障害者のテレワークは進んで行かないように感じられる。

(竹内座長)

- ・当事者や支援機関向けに、障害者のテレワークに関して、群馬県での相談等の流れがわかるようなフローチャートのほか、障害者のテレワークに関するマニュアルや動画等があると良いと思われる。

(2) 令和5年度障害者雇用関連予算案について ※新規・拡充部分を中心に記載

(労働政策課)

- ・障害者就労支援事業では、伴走型支援の対象を拡大し実施予定
- ・障害者テレワーク支援事業は、企業向けセミナーと障害者向けセミナーを同日開催。また、企業向けに交流会を実施予定
- ・ぐんまグッジョブフェアについては、コロナ禍における大規模イベントの実施見直しと企業に対しての障害者雇用促進に注力するため、来年度は実施予定なし

(産業人材育成室)

- ・実践能力訓練コースの介護職員初任者研修は、一般の方と障害のある方も一緒に行う、インクルーシブ型で来年度も引き続き実施予定

(障害政策課)

- ・障害者就労支援連携プロジェクトについて、今年度はコロナのため中止となったが、来年度は実施予定

(農業構造政策課)

※欠席のため資料配付のみ

(特別支援教育課)

- ・新たな作業種に係る研修にて、体験型研修を実施予定。今年度は喫茶サービス研修を実施した。

(岩佐委員)

- ・ぐんまグッジョブフェアのような障害者雇用の周知啓発は重要であると思う。
- ・他県では、人材の量と質を充実させたことにより、障害者雇用率が大きく上昇した県もあるので、群馬県も参考にしてもらいたい。

(事務局)

- ・ぐんまグッジョブフェアについては、本日の意見も参考にし、来年度以降に向けて検討していきたい。
- ・他県の成功事例等も参考にしていきたい。

(竹内座長)

- ・ぐんまグッジョブフェアは、やり方を工夫しての開催や県ホームページに過去の動画を掲載するなど、完全になくならないようし、コロナが落ち着き、大規模イベントが開催できるようになった際には、再び開催できるような道筋を残してもらいたい。

(須田委員)

- ・ぐんまグッジョブフェアについては、形を変えながらも、名前を残していただきたいと思う。また、障害者雇用促進にあたり、マッチングの強化は必要であると感じる。

(佐藤（あ）委員)

- ・ぐんまグッジョブフェアに関して、藤岡市内の企業が参加し、そこから障害者雇用を検討したいとのことで、トータスに相談があった。現在職場実習の受入れを行っており、4月には採用になると思われる。特別支援学校生徒の発表や生徒が作成した販売製品を手に取り、障害者の方が一生懸命頑張っているのを感じて、自社でも障害者雇用を考えようとなる企業もあり、実際に成果も出ている。継続して実施することを検討してもらいたい。

(4) その他

(特別支援教育課)

- ・今年度実施した、喫茶サービス研修について、資料に沿って説明